

2021年度平和カンパのご報告

パレスチナ・ガザ地区 ナワール児童館の活動

特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン



ガザ地区の現状

2021年5月にはイスラエルによる空爆や砲撃によって多くの犠牲と破壊が起こり、軍事封鎖、経済状況の悪化、コロナ禍に加え、パレスチナ・ガザ地区の人々の困窮度合いは一段と高まりました。

ガザに暮らす200万を超える人々はみな、軍事封鎖の影響を受けています。物資、エネルギー、医療、生活や産業に必要なものの供給が不安定で、ガザの外との行き来も自由にできません。失業率は50%を超え、日雇い労働に頼っていた多くの人が職を失いました。

そして、5月にはイスラエル軍による大規模な空爆や砲撃により260人が死亡（民間人129人、子ども66人）、2,200人以上（子ども685人、女性480人）が負傷しました。破壊された建物は1,255戸、居住不可能になるほど深刻なダメージを受けた建物は980戸に及びました。

瓦礫の撤去はおおむね完了したものの、建築資材などは「軍事転用の可能性がある」ことを理由に、イスラエル側がガザへの搬入を制限しているため、インフラ再建への道のりは非常に厳しく、現在も8,820人が家を追われ、避難生活を余儀なくされています。また、ガザ内の8,000世帯（およそ45,000人）が、いまだに食糧や生活物資を必要としています。

コロナ禍のために、学校は2020年度には閉鎖を余儀なくされていましたが、2021年度には教員へのワクチン接種なども進み、対面での授業が再開されました。しかし、学習の遅れや新たに起きた戦争による心理的な影響は、いまだ子どもたちの中に残されています。

従来からガザの子どもの3人に1人が心的外傷を抱え、支援を必要としていましたが、今回の攻撃以降、その割合は91.4%にのぼります。その結果、ガザ地区内で心理社会的サポートを必要としている子どもと保護者は48万7000人以上（うち子ども35万人、保護者13万7000人）いることされ、紛争を間近で経験した子どもの7割以上は、対立から1年経過しても日常的に不安を感じることが判明しており、長期にわたるケアとサポートが必要です。

子どもと母親の居場所・ナワール児童館での活動

こうした状況の中でナワール児童館では指導員や母親、またコミュニティと一緒に子どもたちが危機的状況を切り抜けられるように活動を進めました。衛生管理を徹底し、可能な限り対面での活動を実施し、心理サポートや障がい者の参加にも力を入れました。

●心理サポート：

顔色が悪い、指を口に入れる、爪を噛む、夜眠れない、一言も話さない、夜尿、悪夢などの複数の症状を出している子どもや、がたくさんいました。また、家族や友達に暴力をふるう、重度の場合は自傷行為も見られます。こうしたストレスやトラウマを抱える子どもたちへのグループ活動や心理士による個別カウンセリングなどを実施しました。

絵を描く、工作をする、風船ゲーム、椅子取りゲーム、かくれんぼ、演劇など楽しいことをしてエネルギーを開放します。また、対話を通じて怖いのは自分一人ではないという理解や、呼吸法による怒りや負の感情のコントロールなども教えました。こうしたサポートを続けることで、子どもたちは少しずつ笑顔を取り戻しています。



●夏の活動：

海の近くの開放的な環境でレクリエーションを行いストレスを発散しました。家族や障がいを持った子どもたちも一緒に参加しました。

●アート活動：

アクリル絵の具を使ったキャンバス画や鉛筆画の制作に取り組みました。

●障がい者のインクルーシブ活動：

障がいを持った子どもたちが多数参加しました。また障がい者の社会参加をテーマに地域の小学校の壁にペイントをしたり、手話教室も行いました。

●社会科見学：

母親と子どもたちで、地元の遺跡を訪れ、古代のモザイク画を見ました(写真下右)。



ご支援に感謝いたします

パルシステム東京の平和カンパは、教材費やアクティビティ用の道具や工作などの材料、児童館の水光熱費、通信費、自家発電用の燃料費、地域活動の交通費、コンピューターやアートの指導員である現地スタッフの給与などに活用させていただきました。

パレスチナ問題が長期化するなか、ウクライナを始め世界各地でも次々と多くの問題が発生し、パレスチナで暮らす人々や難民のことは忘れられがちです。

平和カンパによる継続的なご支援のおかげで、ナワール児童館の子どもたちは健やかに成長し、未来に希望を持つことができます。また、生活の不安や子育ての悩みをかかえた母親たちにとっても心強い支えとなっています。心から御礼申し上げます。



(心理サポートや不発弾についての啓発活動の様子)